

第3回「^{あす}明日の仙台塩釜港を考える懇談会」の概要

<懇談会の趣旨>

県では、学識経験者や港湾関係者等を構成員とする「明日の仙台塩釜港を考える懇談会」を立ち上げ、今後の仙台塩釜港の目指すべきあり方について検討を進めているところです。今年2月に開催した第2回懇談会に引き続き、仙台塩釜港において今後取り組むべき課題を整理するため、以下のとおり第3回懇談会を開催しました。

<概要>

- ・日 時：令和5年8月31日（木）午後1時30分から午後3時30分まで
- ・場 所：仙台国際センター 会議棟2階大会議室「橘」
- ・出席者：学識経験者、経済団体、港湾関係者、国・関係市町（全27名）対面・web
- ・内 容：仙台塩釜港において今後取り組むべき課題の意見交換
 - 将来に向けた観光振興・交流人口の拡大への取り組み
 - 脱炭素社会の実現に向けたカーボンニュートラルへの取組 など

<人流増加に向けた取り組みに関する主な意見>

共通事項（仙台塩釜港全体に関する事項も含む）

【クルーズ】

1. 沿岸部において「クルーズ」は大きな武器になる。
2. 東北は宿泊場所が少ないことが課題だが、クルーズ船は宿泊施設でもあるためイベントに合わせて来てもらうことができる。
3. 寄港後のツアー先が観光地（岩手県盛岡市や仙台市など）になる傾向があり、地元観光を促すような仕組みづくりが重要。東日本全体で、各個性を活かした差別化を図ってのポートセールスが大事。

【プレジャーボート】

1. マリンレジャーなどは、港湾、漁港などの行政の枠組みに囚われない幅広い取り組みが必要。

【憩い・集いの水辺空間、滞留時間の増加】

1. 観光地で勝負するのではなく、新たな目的地を創り出し、そこでの滞在時間を増やし、お金が落ちるような仕掛けが必要。地域イノベーターを取り込みながら「目的地づくり」の検討をしっかりと進めていくことが大事。
2. 「ウォーターフロント」と何かの掛け算による新しい魅力づくりに取り組むことが重要。単なるウォーターフロントではなく目的地化していく発想が大事。
3. 高級志向だけでない若者をターゲットとした観光づくり、ヨットの配置など景色・景観を含めたトータルコーディネートしていく考え方も必要。

（開催状況）



（次ページ有）

塩釜港区に関する事項

1. 人流の増加を含めた海辺のにぎわいづくりというテーマは、今後の塩釜港区のあり方を考えていく上で非常に親和性が高い。
2. 港奥部は親水空間、憩いや集いの空間づくりにより地元市民に受け入れられる集客力のある港にしていきたい。まちとの近接を活かして歴史・文化を経済効果に結び付けることが重要。新しい視点・コンテンツによる利活用検討が必要。
3. 塩釜港区東側の商港エリアは、これまでの物流に特化した考え方から発想を転換して、小型クルーズ船、海事観光、海洋レジャー拠点など物流以外の機能を入れ込むことを長期的に考えていく必要がある。
4. セツ浜町は、人と海とが古くから密接に関ってきた歴史があり、まちづくりに「うみ」は欠かせない。吉田・花淵浜地区は、県内有数のヨットの停泊地である小浜の活用を含め、マリンアクティビティの拠点として更なる賑わい創出を図っていきたい。

松島港区に関する事項

1. 松島町の観光振興を検討する中で、インバウンドへの取り組みは重要な課題。他港区から松島へクルーズ客移送のための二次交通網確保などが必要。
2. 湾内遊覧船棧橋に雨・日除けの屋根等の施設整備を望む。
3. 釣り船が遊覧船の航路に入るなどの問題も生じており、安全性確保の観点から、松島湾内のマリンレジャーと遊覧船航路とのエリア分けやルール化が必要
4. 松島単独でなく、塩釜や東松島の周辺地域と連携していくべき。

石巻港区に関する事項

1. 石巻港区周辺の景観的・観光的な要素（南浜復興祈念公園・元気いちば・離島航路など）は、クルーズ客の新たなツアーコンテンツとなる可能性が十分に考えられる。産業観光（工場見学）の切り口も考えられるのではないかと。
2. クルーズ船の受入は、既存の貨物荷役との調整が条件であり、屋根やテント含め受入施設がなく、おもてなしの面で課題が多い。一方、地元産業を守る視点をもって、港湾施設利用においては観光とのバランスが必要。
3. プレジャーボート収容計画について、現計画地の水面貯木場から大曲地区定川河口部への移動を要望している。
4. 東松島市には、奥松島や野蒜の海水浴場やビーチテニス、オルレ、SUP、シーカヤックのほか、大曲地区の海浜緑地公園やパークゴルフ場など海に近い観光資源が多くある。

仙台港区に関する事項

1. 仙台港区は、みなとオアシス仙台港（水族館やキリンビール仙台工場、夢メッセ他）や蒲生地区の文化遺産や自然環境的要素など、人を呼び寄せる魅力ある施設・スポットが多数備わっている。官民連携のもとさらに魅力を高めていくことが重要。
2. 仙台港区の観光施設は海の魅力との結び付きが弱い。連携する工夫や仕掛けが必要。

<「環境」に関する取り組みについて> ※意見なし

1. 「海域環境の保全」について、既定長期構想における「自然と調和を図る空間」として定めている各港区のゾーニングを計画どおり進めていく方針を示した。
2. 「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進協議会」におけるカーボンニュートラルに関する検討内容を共有し、「カーボンニュートラルの取組課題」に仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画の内容を反映させる方針を示した。